



技工士学校卒業おめでとう、 そして、技工士学校さようなら

歯学部附属歯科技工士学校長 野 田 忠

28期生の皆さん、卒業おめでとうございます。2年前、歯科技工とはどんなものか、技工士学校の教育がどんなものか、知らないままに入学したことと思います。歯科技工士学校での2年間は、過密な授業と実習に追われ、教官の褒めたり貶したり、優しい指導と厳しい指導で、波乱万丈の2年間であったと思いますが、この2年間で頑張ったことで、あなたたちは大きく成長したと思いますし、これからの歯科技工士人生での大きな支えとなるものと思います。

歯科は『食べる』ことのサポートがその役目です。歯科医師、歯科衛生士とともに、一生涯楽しく元気に食べるためのサポーターとして、大きく育っていくことを期待します。

平成17年3月、新潟大学歯学部附属歯科技工士学校は、昭和51年からの29年間の歴史を閉じました。新潟大学歯学部附属歯科技工士学校の特色は、歯学部附属の特性を生かし、単に歯科技術を学ぶだけではなく、そのベースとなる基礎的な学問をしっかり学んで、その上に歯科技工を構築していることにあります。歯科理工学はもちろん、口腔解剖学、口腔生理学など、専門家が教える歯科の基本となる基礎科目の勉強は、かなりレベルが高く、苦勞したことと思いますが、それらを学ぶことによって、他の技工士学校では学べないものが身に着いたことと思います。

臨床科目では、歯科の基礎をきちんと持った臨

床各科の教官が教育にあたり、単に技工物を作るというだけではない、総合的な教育を受けています。もちろん、技工実習では技工士学校の教官から、しっかりと技工技術について教育を受けたものと思います。

昭和51年入学の1期生から、平成17年3月に卒業する28期生まで、499名の人たちが、この恵まれた環境で学び、卒業して歯科技工士として羽ばたいてゆきました。優秀な歯科技工士を自信を持って世に送り出したこと、それが新潟大学歯学部附属歯科技工士学校の誇りであり、卒業生の皆さんは我々の誇りです。

29年の間、数多くの若者が、さまざまな思いを持って、技工士学校で学びました。思うように動かない手、教官から叱られて落ち込んだり、苦勞して作ってきた技工物が最後の最後で失敗したり、嫌な思い出もいっぱいあったでしょう。それにも増して、頑張った良い技工物ができたとき、患者さんに喜ばれたとき、そして2年間で共にした仲間との出会いなど、楽しい良い思い出もいっぱいあったことと思います。

新潟大学歯学部歯科技工士学校は平成17年3月で閉校となりましたが、この29年間に学んだ人たちは、我々の誇りであり、新潟大学歯学部附属歯科技工士学校を卒業したことを誇りに、歯科技工の道を歩んでくれることを期待します。



第28期生御卒業おめでとう。 そして、さようなら歯科技工士学校

歯学部附属歯科技工士学校教務主任 渡 邊 清 志

第28期生19名の皆様、御卒業おめでとうございます。2年前歯科技工士という職業を生涯の仕事として選び、本校を受験され見事合格。そして、入学されてからの本校の学生生活は、今までの生活からは類を見ない、短くて密度の濃い2年間の修業期間であったと思います。現在の2年制の歯科技工士教育は、近年の歯科医療の高度化・多様化に対応する歯科技工の知識と技能の基礎を修得するだけでも限界を超えていると言える中で、さらに医療従事者としての幅広い医学・歯科学の基礎知識、豊かな人間性の確立等まで求められている過密教育であります。また、入学と同時に「本校の閉校問題」が表面化し、あわただしい中でのスタート、そして閉校が決定して後輩を迎えることができませんでした。そういった環境の中での28期生の学業態度は、近年ではもっとも自主性と活力を感じるものでした。特に2年次では、19名が一丸となって活動した合宿研修、歯学部運動会、歯学祭、また日本歯科技工学会等への積極的な参加は、一学年だけであることを全く感じない活発な内容であったと感動しています。実習態度においても、現代風ではあるが一人一人が目標を持って実習をしている様子を感じることができました。

超高齢社会を迎えた日本にとって、歯科医療の益々の進歩・発展は重要であります。そのためには、予防医療の充実・国民への口腔ケアの啓蒙等が一層重要視されていますが、同時に補綴治療の向上も重要であり、歯科技工技術の進歩・発展が不可欠でしょう。歯科技工士の存在は、益々重要な地位を占めると思います。自己の目標をしっかりと持って見失うことなく、歯科技工技術の向上に切磋琢磨してください。

一度しかない人生です。健康には留意され、充

実した楽しい人生を過ごされることを祈念しています。

さて、本校は昭和51年4月に日本海側唯一の国立大学附属学校として設置されて以来、現在に至るまでの29年間で卒業生総数499名を社会に送り出して参りましたが、平成17年3月をもって閉校となります。東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校の本科・実習科で4年間、卒後は同大学歯学部附属病院歯科技工部で1年間の、歯科技工経験としては5年という未熟な私が、佐渡出身が縁でしょうか、本校の創設と同時に専任講師として赴任させていただきました。従って、本校の29年間の歴史は、私自身の歴史であり、本校の教育に関わりながら多くを学びました。この間、公私にわたり御指導・御鞭撻をいただいた石岡 靖初代学校長、岩久正明学校長、河野正司学校長、野村修一学校長、野田 忠学校長、そして、特に創設以来御退官されるまでの16年間にわたり御指導いただきました専任講師の松田邦雄初任教務主任、松林哲夫講師には衷心より感謝申し上げます。その他の専任講師、歯学部内・外非常勤講師、大学外非常勤講師、事務職員の皆様方にも、多大な御協力をしていただきましたこと心より感謝申し上げます。

ここで、学校について少し回想してみます。創設時の講義室・実習室は、今はないが医学部の旧建物(現協和会の売店があるあたり)で、石岡 靖学校長も参加されて、講義室の大掃除をしたのですが、拭けば拭くほど汚く感じるほど、埃だらけの部屋からのスタートでした。また実習室は天井が高く、照明が暗いものでした。私事ですが、1年間だけで0.7の視力が0.3にまで低下してしまいました。2年目からは旧大学本部校舎(現有壬会館の場所にあった)に移転し、2年生の臨床実習

が開始されましたが、2期生（新1年生）の基礎実習は7月まで歯学部基礎実習室を借用して行いました。2年目の9月からは2学年とも旧大学本部校舎に移り、延べで5年間過ごしました。夏は暖房付・ヤブ蚊の襲来（某教官得意のバルサン退治は有名）、冬は冷房付・薪ストーブの煙による涙等で悩まされたが、スペースは広く、部屋は明るいものでした。学生の年間臨床ケース数が1人100ケースを超えたのもこの頃（現在は20程度）で、歯学部附属病院から離れていたため学校との往復は大変でしたが、学生には息抜きになったのだろうか、実習に取り組む姿勢は当時の方が活気があったように思われる。そして、「あの技工所並のハードな臨床実習」の中で、私自身も臨床ケースを持ちながら学生と共に、技工物の製作に熱く燃えて過ごしたことが懐かしく、『とにかく当時の学生も教官もよく頑張ったものだ』とつくづく思う。歯学部も10周年を超えた頃で活気があったように思う。この創設時の6年間は、特に辛いこと、苦しいことも多かったが、実に充実していました。本校の基礎（私の基礎）が構築できた期間のように思います。昭和57年4月、第7期生の入学と同時に現在位置に移転させていただき、歯学部附属病院外来に直結した理想的な教育環境となりました。「歯科技工士教育のあり方」「歯科材料の開発」について、学部の先生方と意見を交わしたのもこの頃である。この29年間に東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校実習科などへの進学者をはじめ、数多くの優秀な卒業生が巣立ちました。ある時、来校した本科の卒業生が「職場の先生に『君は優秀だね。今までの学校と、こんなに技術の差があるとは思わなかった』と言われました。厳しく教育していただいたお陰です」と話してくれました。その彼女の笑顔が輝いて見え、私は「努力は決して嘘つかないから」と答えながら、私事のように喜んだこともあった。スパルタ教育には、賛否両論があるだろうが、「技術教育は厳しい方がいいよ」と賞賛し励ましてくれた先生、本校に『虎の穴』の別名をつけてくださった先生が思い出されます。

私自身、個人的に振り返ってみると、反省すべき点は多々あるが、歯科技工士教育、歯科技工物

の製作、歯科技工技術の改良・研究等に微力ながら精力的に努めてきました。自分自身に課題を課して、学会発表、雑誌への投稿等も可能な限り行ったつもりである。余暇を作り趣味（ギャンブル、スポーツ、磯釣り、書道 etc）も楽しんだ。そして、色々な面から考えて、「人生なかなか思うようにはいかないものだ」とも思うが、これらが私の29年間の足跡ではある。また、縁あって関わった学生からは多くのことを学んだし、歯科医療への貢献となる国民への良質な歯科技工物の提供が、卒業生の皆様の活躍で私一人の何万倍もの量で行われると思うと感無量です。卒業生の皆様が活躍されている間は、本校の理念は歯科技工業界に生き続けると確信いたしております。そして今、『20代からの30年を歯科技工士教育に関われて本当に幸福者であった』とつくづく思い感謝しています。

今後は、本校への恩返しの意味からも、これまでの経験を大いに生かせるように、人生の夢を持ち続けながら、自分なりに一生懸命過ごしたいと考えています。

最後に、卒業生の皆様が楽しい人生を過ごされることを祈念しつつ、多くの事柄を学んだ新潟大学歯学部附属歯科技工士学校に感謝の意をこめて、次の詩を贈り終わりといたします。

a thousand winds

Author Unknown

Do not stand at my grave and weep;
I am not there, I do not sleep.

I am a thousand winds that blow.
I am the diamond glints on snow.
I am the sunlight on ripened grain.
I am the gentle autumn's rain.

When you awaken in the morning's hush,
I am the swift uplifting rush
Of quiet birds in circled flight.
I am the soft stars that shine at night.

Do not stand at my grave and cry;
I am not there, I did not die.



歯科技工士学校卒業おめでとう、 そして、歯科技工士学校ありがとう

歯学部附属歯科技工士学校講師 飛田 滋

新潟大学歯学部附属歯科技工士学校第28期生として本校最後の卒業生となられた第28期生の皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんは、入学しまだ日が経たない6月初旬に本校の閉校を知ることになりました。その後の精神的な動揺はどれ程のものだったでしょうか。実感がわからないまま時間が過ぎていったと思います。第28期生の2年次は皆さんだけの寂しい学生生活でした。しかし、このクラスは見事にまとまりを見せて元気よく本校の教育課程を修められました。全国に約70校ある歯科技工士教育機関のなかから本校を選びそして入学を果たし厳しい課程を履修して巣立って行くわけです。どうか本校で修得した歯科技工技術と医療人としてのモラルを糧にして、これから始まる人生を生き活きとかつ堂々と歩いてほしいです。誰もがるとき壁にぶつかります。貴方だけがぶつかる壁があります。自分が駄目だからではなく越えたいと思うからぶつかるのです。諦めずに行きましょう！

新潟大学歯学部附属歯科技工士学校は、29年間に渡り日本いや世界に個性あふれる有能な歯科技工士を輩出してきました。その功績は、後の人が判断することですが、私が成人として歩むことが出来るようになったのは、取りも直さず我が母校である新潟大学歯学部附属歯科技工士学校に入学できたからです。昭和54年の春、18才でした。教授陣の充実ぶりに加え本学歯学部はじめ本校の先生方の熱意と充実した教育内容に改めて驚愕しました。また、血気盛んな同級生・先輩・後輩に恵まれたことも以降私の歯科技工士生活に大きな支えとなったのです。

第4期生である私が通った校舎は、今の有壬記念館があるところです。現在も2学年の実習室を含む一部が取り壊されずに残されています。それ

を見るたびに当時を思い出し初心に返ることが出来るのです。私は本校を卒業後、東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校実習科へ進みましたが、そこで全国から集まる様々な歯科技工士と出会うことになります。自ずと各歯科技工士学校の比較をしてしまう自分がいました。母校が、全国の歯科技工士養成機関のなかで如何に歯科技工士教育に情熱を傾けてきたかということ、社会に出てから思い知らされたのです。

私が、母校の専任講師に就いたのが平成4年4月。石岡靖初代学校長・松田邦雄教務主任・松林哲夫専任講師の定年退官に伴う配属でした。臨床歯科技工から歯科技工教育へ環境が大きく代わったわけですが、その後において歯科技工教育の大切さ・難しさを日々痛感することになるのです。学生一人一人のスキルアップを目標に掲げ、どのようにしたらより合理的にかつ個人に対応した指導ができるかを教務間で協議してきました。時には激論にもなりました。しかし、これは学生ならびに本校を良くしようという熱意があるからこそできたことです。その度に自分の思慮不足を感じました。まだまだ十分な経験とはいえない自分ですが、教える側の情熱なくして教わる側は動くわけがないということが、近頃身に染みて分かってきました。当然のことではありますが、高い理想のもと途切れることがない実践が難しくも重要なのです。単なるシステムに頼るのではなく教える側の資質・熱意が学生に必ずや響くものと信じます。近頃様々なところから本校の卒業生に対する高い評価を聞くことができます。これは本校卒業生が、一生懸命に地域歯科医療の一端を担っている事に違いありません。加えてその礎は、紛れもなく新潟大学歯学部附属歯科技工士学校で修得したものです。周囲のありがたい讃辞に対して、学

校は気を緩めず襟を正して進まなければならないです。しかし、全国区に本校ありと声高に叫ぼうとも、我が母校の新たな傳承者は平成16年度3月をもって絶えることになるわけです。現在の本校に対する評価は、数年で得られるものでは決してありません。1期生からの絶え間なき蓄積があったからこそいただけるものでしょう。教育をはじめ技術の成果が世に花開くには、かなりの時間を費やします。本校が閉校を余儀なくされることは、新潟大学の潮流とはいえ誠に残念至極であり無念です。今後私は、歯科技工教育が新潟大学歯学部ならびに大学院医歯学総合研究科のなかで風化しないように取り組まねばなりません。何故ならばこれから将来も歯科医学・歯科医療の世界に歯科技工と歯科技工士は必要不可欠と確信するからです。

もう一度言わせていただきます。新潟大学歯部に歯科技工士学校が誕生して29年が経ちまし

た。この間に培われた歯科技工教育の理念と教育内容そして伝統は、必ずや歯学教育に新たな展開をもたらすことでしょう。

母校の目の前に新潟市で一番早く咲くと言われる桜が3本植えられています。新潟大学歯学部の顔であり、桜が咲く時期は、学校町通りを行き交う市民の憩いの場所です。その満開の桜を本校の窓越しから眺めてきましたが、その桜が国道拡幅整備のため移植されることになりました。奇しくも本校の閉校と同じ3月です。市民に愛され続けたこの桜のように新潟大学歯学部附属歯科技工士学校の歴史が、大学および歯科関係者の記憶に失せることなく生き続けてほしいものです。また自分を含め卒業生は、これからも母校を誇りに持って歩いていきましょう。新潟大学歯学部附属歯科技工士学校長い間本当にありがとうございました。



河野正司副学長
(平成17年3月10日 歯学部講堂)



技工士学校卒業おめでとう、 そして、さようなら技工士学校

歯学部附属歯科技工士学校講師 岡田直人

新潟大学歯学部附属歯科技工士学校最後の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この2年間は、今まで過ごしてきた人生の中でも、特に密度の濃いものだったのではないのでしょうか。2年間で行うには、あまりにも多い課題や、多岐にわたる学習項目などをこなし卒業に至ったことは、今後自信となって心を支えてゆくでしょう。そして本校は、私の知る限り、最も高い基準で歯科技工士教育を行っていると思っております。そのうえ臨床実習において、実際の患者さんに対して歯科技工物を製作し、実際の歯科の仕事現場を経験することができたことは、なににも代え難い財産となっていることと思います。本校の卒業生であることに誇りを持って力一杯社会へ踏み出して行ってください。

今年の卒業生は、なぜか現役が少なくバラエティーに富んだ幅広い年代にまたがっていて、そのうえ個性的な人がたくさんいたので、いろんな意味でおもしろい学年でした。今まで同年代の中でしか生活していなかった人にとっては、良い社会勉強になったことと思います。専門学校は、学生と社会人の橋渡しとしての役割もあるのだと思いますが、今年の卒業生はそういう意味でも、貴重な良い経験ができたのではないかと思います。歯科技工士という職業は、私も含めて社交下手な人が選びがちな職業だと思います。そのうえ社会にでてしまうとなかなか新しい交流も少なくなります。ここでできた友人という横のつながりを広げ

ながら、協力しあって歯科医療の向上に皆が貢献できることを心から希望し、期待しています。また、いろいろな事情で、歯科技工士を続けることができなくなったとしても、この学校で得た知識を自分の家族や友人、子供に伝え、歯科に対する関心を広めていってほしいと思います。一般の人々の歯科に対する興味や要求を高めることによっても、歯科医療の質の向上に貢献できると思うからです。

ご存じの通り、皆さんの母校である新潟大学歯学部附属歯科技工士学校は、皆さんの卒業とともに29年の歴史に幕を下ろすことになりました。4月になれば、思い出の教室や実習室は、改修されて他の使われ方をすることとなります。皆さんの母校がなくなってしまうことを止められなくて申し訳ありませんでした。大変残念に思っています。

結果的に歯科技工士を不要と判断してしまったこの大学で、私のような歯科技工士が生きていく術があるのかどうかわかりませんが、私は、今後携わる歯学部の歯科技工教育の現場で歯科医療における歯科技工の大切さを伝え、歯科医療の向上と歯科技工士学校の復活を夢見て、鍛錬していきたいと思っております。皆さんも、本校の看板を背負って歩いていることを忘れずに、恥ずかしくない道を真っ直ぐ歩んでください。皆さんの活躍こそが、なくなってしまった母校を輝かせる唯一の方法なのだと思います。

卒業にあたって

歯科技工士学校 第28期生 金子香織



今までに何回か学校を卒業してきて、その都度学校生活を振り返り思うことは『早かったなあ』の一言です。そして今回また振り返ると今までになく、「早かったなあ」と感じます。けれど

それとは逆に、まだ2年しか経っていないのかとも思うのです。

今までだったら、忙しく時間が過ぎるのを早く感じることはありましたが、それと同時に一日一日の内容がとても濃かったので、一日で一週間分をやったような気になっていました。一か月経つと数か月経つたような錯覚をし、ふとカレンダーを見るとあれだけやったのにまだ一か月かっ？！という気分でした。だからまだ2年しか経っていないのかと感じるのだとおもいます。

私は長野出身なのですがいつも新潟の環境、特にころころ変わる天気や強い風にはうんざりしていました。けれど、住めば都という言葉があるように慣れてしまえばころころ変わる天気が面白く新潟にいるんだなあ実感します。ただ強い風だけは…。そんな新潟で一人暮らしや歯科技工という全く知らなかったものを学ぶ生活、ほとんど初めてのことばかりでしたが、ここに住んでこの学校に通った毎日は楽しかったです。またそこでいろんな人に知り合えたことは本当によかったと思います。

まだ歯科技工の入口に立つことができたくらいだけど、すぐに出口を抜けてしまわないように上を見ていきたいです。

最後に先生方、先輩方本当にありがとうございました。そして19人という少ない人数だったけれど、その中の1人として2年間みんなと過ごせてホントによかった。後輩には恵まれず2年の始めは少し寂しい感じがしたけれど、そんなこと関係なくらいみんなキャラが濃いから楽しかった！！ そんなクラスをひっぱっていった岡田先

生は本当に大変だったと思います。お世話になりました。来年からは少しは楽になりますか？

新潟市で1番最初に咲いていた桜の木も学校もなくなってしまうのはとても残念だけど、新潟大学歯学部附属歯科技工士学校の一員になれたこと、そして最後を飾れることを誇りに思います。ありがとうございました。

卒業にあたって

歯科技工士学校 第28期生 富田侑志



2年という学校生活もあと1ヶ月弱になってしまいました。本当に早いもので2年という時間だけでは教わりきれないのに終わりを迎えてしまいます。もちろんこれから学ぶことの方が

多く、今まで以上の努力とひたむきな精神力をもとめられると思いますが頑張りたいです。

入学当初は歯科技工士の世界がどんなものか勝手な妄想をふくらませ、そして歯科技工を楽観的に見てしまっていました。仲間と遊ぶことばかり考えていました…今でも相変わらずなんですけど。題は…卒業にあたってでしたね。一番寂しいのはやっぱり歯科技工士学校が無くなること…ですよ。29期生が入ってこないと知ったとき反対しただけど、もう決定事項と言われ残念がってるみんなの顔今でも覚えてます。涙を流している人、血管が浮き出そうなくらい頭に血がのぼっていた人、先生の行き先を気にしている人などいろんな仲間が歯科技工士学校にいました。でも今じゃ笑い話ですけどね…あと寂しい事といえば仲間とバラバラになることですね。2年だけでもみんなそれぞれの信頼関係をしっかりと築いていくことができました。ときに笑い、泣き、励まし合い、恋をしてそのたびに相談し、ふられたら真剣に慰めてくれた…年齢なんか関係なく付き合ってくれる大事な仲間達…技工も大事だけど、それよりもっとすばらしい絆で結ばれた仲間と出会えたこと

が人生においての宝物になりました。

卒業後は就職、進学になりますが冒頭でも言ったとおりこれからが大変だけど、歯科技工士として社会に貢献することに誇りをもって取り組みたいです。最後になりますが、歯科技工士学校卒業

生として歯学部ニュースに載せていただきありがとうございます。ふさわしい文章にはなっていませんがこれで終わりたいと思います。歯科技工士学校は天下無双にやむ。

